

[トップ](#)   [ニュース](#)   [Twitter](#)   [3DCG](#)



[Linux](#)   [WordPress](#)   [雑記](#)

[シログ](#) > [Linux](#) >

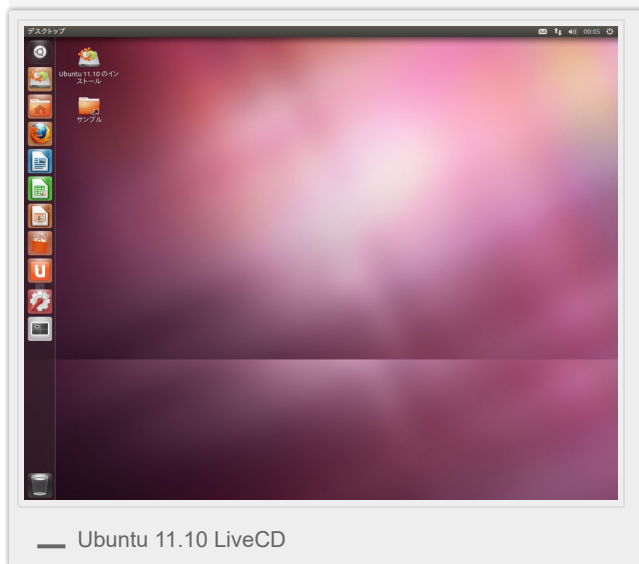
## Ubuntu 11.10 をUSBメモリにインストールする



Ubuntu 11.10 日本語Remix がリリースされたので、また試してみました。  
今回も前と同様に、USBメモリにUbuntuをインストールして起動できるようにしつつ、空いているスペースをWindowsやMacでデータを保存できるストレージにします。  
でも実はこのバージョンも作業方法は全くと言っていいほど変わってないのですが念のため手順を残しておこうと思います。  
※本文ではUSBメモリと表記していますが、実際に使っているのはUSB接続の外付けHDDです。USBメモリでもインストール方法も起動方法も同じなので気にしないでください。

### Ubuntu 11.10 LiveCD を起動する

CDブートしてUbuntu 11.10 を起動。



Ubuntu 11.10 からはLiveCD で起動しているときから既にデスクトップがUnityになっていました。（PCのグラフィックボードとかの環境によって違うのかも）  
なぜか壁紙がズレて表示されていてスクリーンショットを撮るのには不細工なので変更。





おなじみのあずき色に。

この時点でUbuntu 10.04 からの変更で目立つ部分はほとんど無いですね。

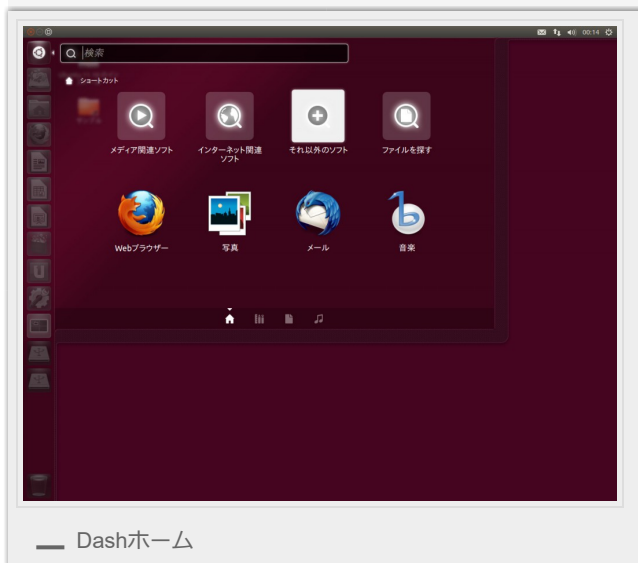
左のランチャーに登録されているアイコンが違うくらいでしょうか。

## USBメモリをフォーマットする

USBはパーティションで分割して、前半をFAT32でフォーマットし、後半にUbuntuをインストールすることでWindowsやMacを使用しているときにUSBメモリを接続すればファイルを保存できるストレージとして認識し、USBブートすればUbuntuが起動するようになります。

メディアのパーティションを管理するソフトは「Gparted」ですが、デスクトップ環境が変わってるのでちょっと迷ってしまいました。

左上の『Dashホーム』から『それ以外のソフト』



『結果の絞り込み』の下を開いて『システム』を押すと



### — Gpartedを探す

インストール済みのソフトのところに『Gparted パーティション編集ツール』が出現。

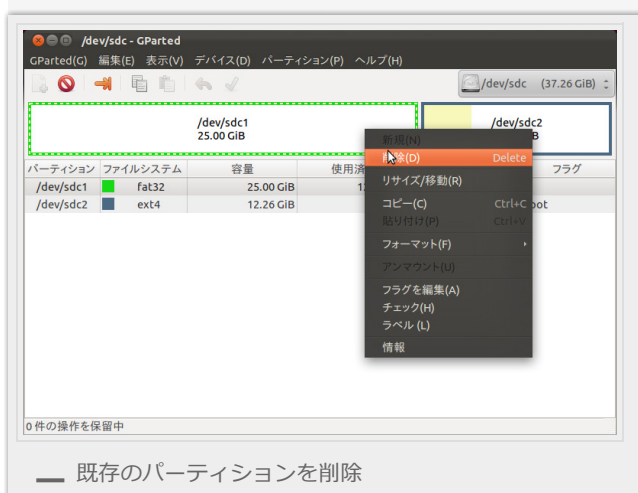
Gparted パーティション編集ツールがを起動して対象のUSBメモリに切り替え。



### — USBメモリを選択

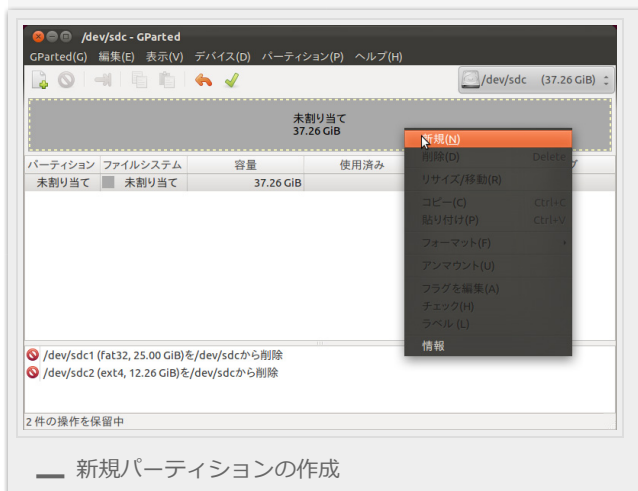
既存のパーティションを削除。

操作ができないときはマウント中になっているのでアンマウントすればできるようになります。



### — 既存のパーティションを削除

新規パーティションを作成。



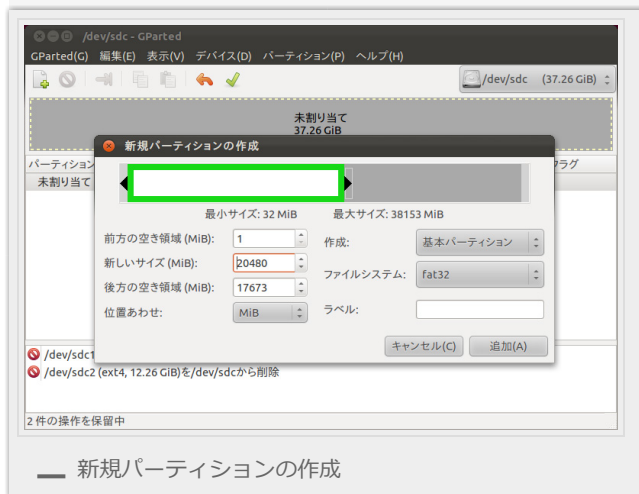
### — 新規パーティションの作成

まずはWindowsやMacからファイルが保存できるストレージのスペースを作ります。  
今回は20GB分（20480MB）にしてみました。

**新しいサイズ(MiB) : 20480**

**作成 : 基本パーティション**

**ファイルシステム : fat32**



設定して[ 追加 ]。

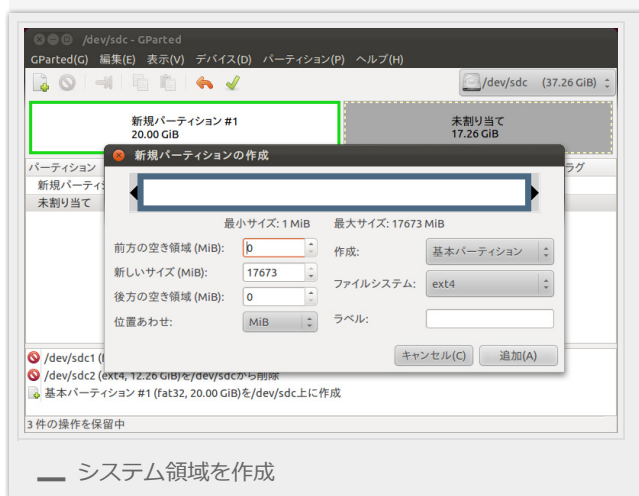
未割り当ての部分に新規パーティションの作成。

ここにUbuntuをインストールする領域を作成します。

**新しいサイズ(MiB) : 17673**

**作成 : 基本パーティション**

**ファイルシステム : ext4**



設定して [ 追加 ]。

[ 全ての操作を適用します ] をクリック。

